

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
15.人体の構造と機能Ⅰ (生命の誕生と細胞、からだを守る)				巻渕隆夫 医師22年 関谷伸一 渡部恵利香 看護師8年	
年次	時期	時間数・回数	単位		授業形態
1	前期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	生命の誕生と細胞、からだを守る構造と機能を学び、看護とつなげることができる。				
科目 目標	1.人体を学ぶうえでの基礎となる人体の区分と各部位の名称、方向や位置関係を表す用語を理解する 2.人体の基本単位である細胞、組織、器官の構造と機能を理解する 3.体液・血液の組成および機能と、酸塩基平衡の調節機構を理解する 4.恒常性維持機能のしくみを理解する 5.生殖・発生と老化のしくみと機能を理解する				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修 2.看護をつなぐの事前資料の学習をすすめて授業に参加する				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	人体の基本構造	1.人体の体位と区分		
2	2	人体の基本単位	1.人体の成り立ち 2.細胞 1)細胞の構造 2)遺伝と遺伝情報 3)細胞の代謝と機能		
3	2		3.組織 1)上皮組織 2)支持組織 3)筋組織 4)神経組織		
4	2		4.器官 1)層構造の器官 2)実質性の器官 3)体腔と器官 5.器官系の概要		
5	2		1.体液 1)体液の区分と役割 2)体液調節 3)酸塩基平衡の調節4)体液の恒常性維持機構		
6	2	体液と血液	2.血液 1)血液の細胞成分と造血 2)血液の機能と物理化学的特性 3)赤血球の機能		
7	2		2.血液 4)白血球の機能 5)止血と血液凝固 6)血液型と輸血		
8	2	恒常性維持のしくみ (生体防御機構)	1.非特異的生体防御機構 1)外来性異物からの生体防御機構 2)上皮のバリア機構 3)食細胞と自然免疫 4)サイトカイン 2.特異的生体防御機構 1)獲得免疫に重要な物質、細胞、器官 2)細胞性免疫と液性免疫		
9	2		2.特異的生体防御機構 3)アレルギー反応 3.体温 4.からだのリズム性変化と睡眠		
10	2	生殖・発生と老化	1.男と女 1)生殖細胞の分化と減数分裂 2)性の決定 3)性の分化		
11	2		2.生殖器 2)女性の生殖器		
12	2		3.受精と胎児の成長 1)受精 2)着床 3)初期発生 4)胎盤と臍帯 5)ヒトの成長 6)分娩と褥婦 7)乳腺の発達と授乳		
13	2		4.成長と老化 1)生後発達 2)思春期 3)組織および臓器の加齢変化		
14	2	看護とつなぐ 体液と血液	1.事例から理解する人体の構造と機能 1)のどが渇くのはなぜ？ 2)感染から身を守るためには？		
15	2	終講試験			
使用テキスト:e新体系 看護学全書 解剖生理学 人体と構造と機能 メヂカルフレンド社					
参考資料:					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
16.人体の構造と機能Ⅱ (循環する、呼吸する)				降旗宏典 医師6年 関谷伸一 渡部恵利香 看護師8年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	前期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目 目的	人間が呼吸する、体液の調整と循環についての構造と機能を理解し、その知識を基盤として人体の構造と機能を系統だてて主体的に学び、看護につなげることができる。				
科目 目標	1. 血液循環にかかわる心臓と血管のしくみと機能を理解する 2. 呼吸器系のしくみと機能を理解する				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修 2.看護をつなぐの事前資料の学習をすすめて授業に参加する				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	血液循環のしくみ	1.循環器の構造と機能 1) 心臓 (1)心膜と心嚢 (2)心臓と大血管の位置 (3)心臓の構造		
2	2		1.循環器の構造と機能 1) 心臓 (4)心臓の機能		
3	2				
4	2		1.循環器の構造と機能 2) 血管 (1)血管の構造 (2)血管の機能		
5	2		2.循環系 1) 肺循環		
6	2		2.循環系 2) 体循環		
7	2		3.特殊な領域の循環 1) 冠循環の特徴 2) 脳循環の特徴と血液-脳関門 3) 皮膚循環の特徴 4) 門脈系 5) 側副循環		
8	2	リンパ系	1.リンパ系の構成 2.リンパ管の構造と機能 3.リンパ液 4.リンパ節 5.扁桃 6.脾臓 7.胸腺		
9	2	呼吸のしくみ	1.呼吸器の構造 1) 上気道 2) 喉頭 3) 気管と気管支 4) 肺		
10	2		1.呼吸器の構造 5) 胸膜、縦隔 6) 呼吸筋		
11	2		2.呼吸器の機能 1) 肺における換気機能 2) 肺でのガス交換と血液中のガス輸送		
12	2		2. 呼吸器の機能 3) 呼吸の調節 4) 正常な呼吸と異常呼吸		
13	2	看護とつなぐ 循環する	1.事例から理解する人体の構造と機能 1) 心臓が自力で動けるのはなぜ？		
14	2	看護とつなぐ 呼吸する	1.事例から理解する人体の構造と機能 1) 肺はどのようにして空気を取り入れる？		
15	2	終講試験			
使用テキスト:e新体系 看護学全書 解剖生理学 人体と構造と機能 メヂカルフレンド社					
参考資料:					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
17.人体の構造と機能Ⅲ (食事する、排泄する)				関谷伸一 佐々木保子 看護師7年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	前期	30時間・15回	1		
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目 目的	人間が食事・排泄するときの構造と機能を理解し、その知識を基盤として人体の構造と機能を系統だてて主体的に学び、看護につなげることができる。				
科目 目標	1.食物を消化し、栄養素を吸収するためのしくみについて理解する 2.消化管の運動と消化液の分泌調節について理解する 3.尿生成の過程とその調節について理解する				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修 2.看護をつなぐの事前資料の学習をすすめて授業に参加する				
回数	時間	授業内容			
1	2	消化・吸収・代謝のしくみ	1.消化管の基本構造と機能 1)消化管の基本構造 2)消化管の運動 3)消化管ホルモン		
2	2		2.歯・口腔・咽頭の構造と機能 1)歯・口腔の構造と機能 2)咽頭の構造と機能		
3	2		3.消化管の構造と機能 1)食道の構造と機能 2)胃の構造と機能 3)小腸の構造と機能 4)大腸の構造と機能		
4	2		4.肝臓、胆嚢、膵臓 1)肝臓・胆嚢の構造と機能 2)膵臓の構造と機能		
5	2		5.栄養素の消化と吸収・代謝 1)消化管における消化の基本原則 2)炭水化物の消化・吸収・代謝 3)たんぱく質の消化・吸収・代謝		
6	2		5.栄養素の消化と吸収・代謝 4)脂質の消化・吸収・代謝 5)消化吸収に伴う水の移動		
7	2		5.栄養素の消化と吸収・代謝 6)排便 6.腹膜 1)腸間膜		
8	2	排尿・体液調節しくみ	1.腎・泌尿器の構造と機能 1)腎臓の構造		
9	2		1.腎・泌尿器の構造と機能 2)腎臓の機能		
10	2		1.腎・泌尿器の構造と機能 3)その他の機能		
11	2		2.尿路 1)尿管 2)膀胱 3)尿道		
12	2		2.尿路 4)排尿		
13	2	看護とつなぐ (食事する)	1.事例から理解する人体の構造と機能 1)食べたものはどこに行く？		
14	2	看護とつなぐ (排泄する)	1.事例から理解する人体の構造と機能 1)尿はどうやってつくられる？		
15	2	終講試験			
使用テキスト:e新体系 看護学全書 解剖生理学 人体と構造と機能 メヂカルフレンド社					
参考資料:					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
18.人体の構造と機能Ⅳ (活動する)				関谷伸一 岡村ひろみ 看護師33年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	前期	30時間・15回	1		
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目 目的	人間が活動するときの構造と機能を理解し、その知識を基盤として人体の構造と機能を系統だてて主体的に学び、看護につなげることができる。				
科目 目標	1.骨、関節、筋肉の基本的なしくみを理解する 2.身体の支持・運動のしくみと働きを理解する				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修 2.看護をつなぐの事前資料の学習をすすめて授業に参加する				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	からだの支持・運動のしくみ	1.骨 1) 骨の構造 2) 骨の種類と形 3) 骨の機能 4) 骨の発生と成長		
2	2		2.骨の連結 1) 不動連結 2) 関節の構造と種類 3. 骨格筋 1) 骨格筋の構造		
3	2		3.骨格筋 2) 骨格筋の機能		
4	2		4.各部の骨格と筋の構造と機能 1) 骨と筋の主な運動		
5	2		4.各部の骨格と筋の構造と機能		
6	2		2) 体幹の骨と筋		
7	2		4.各部の骨格と筋の構造と機能		
8	2		3) 上肢の骨と筋		
9	2		4) 下肢の骨と筋		
10	2		4.各部の骨格と筋の構造と機能 5) 頭部・頸部の骨と筋		
11	2	看護をつなぐ (活動する)	1.事例から理解する人体の構造と機能 1) 物をつかんで持上げるときに、どの骨・関節・筋が使われている？		
12	2				
13	2		1.事例から理解する人体の構造と機能		
14	2		2) 歩くときには、どの骨・関節・筋が使われている？		
15	2	終講試験			
使用テキスト:e新体系 看護学全書 解剖生理学 人体と構造と機能 メヂカルフレンド社					
参考資料:					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
19.人体の構造と機能Ⅴ (感じる・考える、調節する)				巻渕隆夫 医師22年 関谷伸一 岡村ひろみ 看護師33年 星野めぐみ 看護師21年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	
1	前期	45時間・23回	2	授業形態 授業・演習	
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目 目的	人間が活動するときの構造と機能を理解し、その知識を基盤として人体の構造と機能を系統だてて主体的に学び、看護につなげることができる。				
科目 目標	1. 神経系による情報伝達と処理のしくみを理解する 2. 感覚の種類とその機能について理解する 3. 自律神経系による各器官の機能とその調節を理解する 4. ホルモン役割とその分泌を調節するしくみを理解する				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修 2.看護をつなぐの事前資料の学習をすすめて授業に参加する				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	情報伝達と処理のしくみ	1.神経組織 1) 神経細胞と神経線維 2) 神経細胞の種類 3) 神経膠細胞とシュワン細胞 4) 神経の活動 5) シナプス伝達 6) 神経筋接合部における伝達と筋収縮		
2	2		2.末梢神経系		
3	2		1) 体性神経系 2) 脳神経		
4	2		2.末梢神経系 3) 脊髄神経		
5	2		2.末梢神経系 4) 自律神経系 3.中枢神経 1) 中枢神経系の構成要素 2) 中枢神経の発生と区分		
6	2		3.中枢神経		
7	2		3) 髄膜と脳室 4) 脊髄と脳の構造と機能		
8	2		3.中枢神経 5) 反射		
9	2		3.中枢神経 6) 統合機能		
10	2		4.感覚系の伝導路 1) 体性感覚の伝導路 5.運動系の伝導路		
11	2	情報受容のしくみ	1.感覚 1) 感覚の基礎 2) 皮膚の構造		
12	2		2.内部感覚 1) 内臓感覚の受容器と機能 2) 関連痛		
13	2		3.視覚器 1) 視覚器の構造		
14	2		4.聴覚・平衡感覚 5.味覚器・嗅覚器		
15	2	内分泌とホルモン	1.ホルモンとは 1) ホルモンの定義と種類 2) ホルモンの合成・分泌の調節 3) 内分泌器官の局在		
16	2		2.内分泌器官の構造とホルモンの機能 1) 視床下部 2) 下垂体 3) 甲状腺		
17	2		2.内分泌器官の構造とホルモンの機能 4) 副甲状腺とカルシウム代謝 5) 膵島ホルモンと糖代謝		
18	2		2.内分泌器官の構造とホルモンの機能 6) 副腎 7) 性腺ホルモン 8) そのほかのホルモン		
19	2	看護とつなぐ (神経と生活行動)	1.事例から理解する人体の構造と機能 1) 脊髄神経と生活行動のつながりは？		
20	2	看護とつなぐ (感覚器)	1.事例から理解する人体の構造と機能 1) どのように痛みを感じるの？		
21	2	看護とつなぐ (ホルモンと生活行動)	1.事例から理解する人体の構造と機能 1) ホルモンと恒常性維持のつながりは？		
22	2	看護とつなぐ (ホルモンと生活行動)	1.事例から理解する人体の構造と機能 1) ホルモンと恒常性維持のつながりは？		
23	2	終講試験			
使用テキスト:e新体系 看護学全書 解剖生理学 人体と構造と機能 メヂカルフレンド社					
参考資料:					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
20.健康障害と回復過程 I				伊達和俊 医師31年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	30時間・15回	1		講義
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目 目的	臓器の違いをこえて共通にみられる健康障害の原因や成り立ち、身体への影響と回復過程の仕組みおよび治療を理解できる。				
科目 目標	1.基本的な病変の原理とその回復過程を理解する。 2.治療法の概要を理解できる。				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	病理学	病理学の領域		
2	2		細胞・組織とその障害 再生と修復		
3	2		循環障害		
4	2		炎症 免疫とアレルギー		
5	2		感染症 代謝異常		
6	2		老化と老年病 新生児の病理		
7	2		先天異常 腫瘍		
8	2		生命の危機 ショック DIC MOF ARDS		
9	2	治療法概説	薬物療法 薬物の作用・薬物の濃度・薬用量 医薬品および処方せんに関する法令		
10	2		食事療法 栄養学の基本 患者と栄養 各種病態と食事療法の基本方針		
11	2		運動療法 リハビリテーション療法		
12	2		放射線療法		
13	2		内視鏡的治療		
14	2		手術療法		
15	2	終講試験			
使用テキスト:e系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 1 病理学 医学書院 e新体系看護学全書 治療法概説(別巻13) メディカルフレンド社					
参考資料					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
21.健康障害と回復過程Ⅱ (循環器・呼吸器・造血器・ 女性生殖器・防御機構の健康障害)				大堀高志 医師21年 清水 崇 医師23年 飯酒益訓充 医師31年 太田求磨 医師25年 宮崎 泰 医師32年 山崎一郎 医師38年 渡部恵利香 看護師8年 千葉一美 看護師28年	
si	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	60時間・30回	2		講義・演習
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目 目的	循環器・呼吸器・造血器・女性生殖器における健康障害とその回復過程について理解する。また看護の視点で健康障害とその回復過程を考えることで、根拠をもって観察・判断するための力を養う。 防御機構の障害とその治療を学ぶことで、看護の役割を理解する				
科目 目標	1.循環器・呼吸器・女性生殖器の健康障害と症状、それに応じた治療・検査を理解する 2.防御機構の障害のしくみと治療を理解する 3.既習の「人体の構造と機能」と循環器・呼吸器の健康障害と症状を関連づけ、看護の対象を観察して気づき、アセスメントするための基盤をつくる。				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修 2.「人体の構造と機能」の看護でつなぐで使用した資料を復習する				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	循環器疾患 基礎的知識	1.構造と機能 2.症状と病態生理 3.検査と治療		
2	2	循環器疾患 主な疾患と診療	1.虚血性心疾患と症状 2.心不全と症状		
3	2		3.血圧異常 4.不整脈と症状		
4	2		5.弁膜症 6.心膜炎 7.心筋疾患 8.肺性心		
5	2		9.先天性肺疾患 10.動脈系疾患 11.静脈系疾患 12.リンパ系疾患		
6	2	呼吸器疾患 基礎的知識	1.構造と機能 2.症状と病態生理 3.検査と治療・処置		
7	2	呼吸器疾患 主な疾患と診療	1.感染症 2.間質性肺疾患と症状		
8	2		3.慢性閉塞性肺疾患と症状 4.肺血栓塞栓症と症状		
9	2		5.呼吸不全 6.呼吸調節に関する疾患 7.肺腫瘍		
10	2		8.肺・肺血管の形成異常 9.胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 10.肺移植 11.胸部外傷		
11	2	造血器疾患 基本的知識	1.血液の生理と造血のしくみ 2.検査・診断と症候・病態生理		
12	2	造血器疾患 主な疾患と診療	1.赤血球系の異常		
13	2		2.白血球系の異常 3.造血器腫瘍		
14	2		4.出血性疾患		
15	2	感染症とは	1.感染症とは何か 2.感染症が成立する条件 3.感染症の病態生理と症状		

16	2	感染症 疾患の理解	1.人動物咬傷 2.ウイルス性感染症 3.真菌感染症 4.寄生虫感染症 5.HIV感染症と日和見感染症	
17	2		6.新興・再興感染症 7.多剤耐性菌感染症 8.悪性腫瘍に伴う感染症	
18	2	感染症治療	1.感染症治療の原則 2.抗菌薬 3.抗真菌薬 4.抗ウイルス薬 5.一次予防と二次予防	
19	2	アレルギー 基本的知識・疾患の理解	1.免疫のしくみとアレルギー 2.検査と治療 3.症状と病態生理	
20	2	膠原病 基本的知識・疾患の理解	1.自己免疫疾患とその機序 2.症状と病態生理	
21	2		3.検査と治療 4.疾患の理解	
22	2	女性生殖器疾患 基礎的知識	1.構造と機能 2.症状と病態生理 3.診察・検査と治療・処置	
23	2	女性生殖器疾患 疾患の理解	1.性分化疾患 2.臓器別疾患	
24	2		3.機能的疾患 4.感染症	
25	2	看護とつなぐ 循環器の健康障害と症状	1.事例から理解する健康障害と症状 1)心筋梗塞と診断された対象の症状と治療の関連図作成 2)1)の理解の共有して生活行動への影響を理解をする	
26	2			
27	2	看護とつなぐ 呼吸器の健康障害と症状	1.事例から理解する健康障害と症状 1)呼吸不全と診断された対象の症状と治療の関連図作成 2)1)の理解の共有して生活行動への影響を理解をする	
28	2			
29	2	看護とつなぐ 感染予防	1.感染経路別予防策と隔離方法 2.アウトブレイクへの対応 3.院内感染対策の実践	
30	2	終講試験		
使用テキスト:e系統看護学講座 成人看護学 3循環器 2呼吸器 4血液・造血 11感染症・膠原病・アレルギー 9女性生殖器 医学書院 参考資料:e新体系 看護学全書 解剖生理学 人体と構造と機能 メヂカルフレンド社				
評価方法:筆記試験				

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
22.健康障害と回復過程Ⅲ (歯科・口腔・消化器の健康障害)				飯原 仁 医師49年 野尻義文 医師27年 岡村ひろみ 看護師33年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目 目的	消化器・歯科・口腔における健康障害とその回復過程について理解する。また看護の視点で健康障害とその回復過程を考えることで、根拠をもって観察・判断するための力を養う。				
科目 目標	1.消化器の健康障害と症状、それに応じた治療・検査を理解する 2.歯科・口腔の健康障害と症状、それに応じた治療・検査を理解する 3.既習の「人体の構造と機能」と消化器の健康障害と症状を関連づけ、看護の対象を観察して気づき、アセスメントするための基盤をつくる。				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修 2.「人体の構造と機能」の看護でつなぐで使用した資料を復習する				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	歯科・口腔系疾患 基礎的知識	1.歯・口腔の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査と治療・処置		
2	2	歯科・口腔系疾患 主な疾病と診療	疾患と症状の理解		
3	2	消化器の構造と機能	各臓器の構造と機能		
4	2	消化器疾患 症状とその病態生理	消化器疾患における症状、徴候の特徴とその病態生理		
5	2	消化器疾患 検査と治療	消化器疾患の診察と診断の方法について各種の検査の意義・目的・実施法・適応疾患		
6	2				
7	2	消化器 主な疾患と診療	食道の疾患と症状		
8	2		胃・十二指腸疾患と症状		
9	2		胃・十二指腸疾患と症状		
10	2		腸および腹膜疾患と症状		
11	2		肝臓・胆のうの疾患と症状		
12	2		膵臓の疾患と症状		
13	2		急性腹症 腹部外傷		
14	2	看護とつなぐ 消化器の健康障害と症状	1.事例から理解する健康障害と症状 1)C型肝炎と診断された対象の症状と治療の関連図作成 2)1)の理解の共有して生活行動への影響を理解をする		
15	2	終講試験			
使用テキスト:e系統看護学講座 成人看護学 5消化器 15歯・口腔 医学書院 e系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 1 病理学 e新体系看護学全書 治療法概説(別巻13) メヂカルフレンド社 参考資料:e新体系 看護学全書 解剖生理学 人体と構造と機能 メヂカルフレンド社					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
23.健康障害と回復過程Ⅳ (腎・泌尿生殖器の健康障害)				上野光博 医師4年 片桐明善 医師25年 渡部恵利香 看護師8年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目 目的	腎・泌尿器における健康障害とその回復過程について理解する。また看護の視点で健康障害とその回復過程を考えることで、根拠をもって観察・判断するための力を養う。				
科目 目標	1.腎・泌尿器の健康障害と症状、それに応じた治療・検査を理解する 2.既習の「人体の構造と機能」と腎・泌尿器の健康障害と症状を関連づけ、看護の対象を観察して気づき、アセスメントするための基盤をつくる。				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修 2.「人体の構造と機能」の看護でつなぐで使用した資料を復習する				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	腎疾患 基礎的知識	腎臓・泌尿器の構造と機能		
2	2		症状とその病態生理		
3	2		検査と治療・処置		
4	2				
5	2	腎疾患 疾患の理解	腎疾患と症状		
6	2		腎疾患と症状		
7	2		腎疾患と症状		
8	2		腎疾患と症状		
9	2	泌尿生殖器疾患 基礎的知識	1.構造と機能 2.症状と病態生理 3.検査と治療・処置		
10	2	泌尿生殖器疾患 疾患の理解	1.泌尿器の疾患と症状		
11	2	泌尿生殖器疾患 疾患の理解	2.感染症 3.生殖器の疾患と症状		
12	2	看護とつなぐ 腎臓の健康障害と症状	1.事例から理解する健康障害と症状 1)腎不全と診断された対象の症状と治療の関連図作成		
13	2		1.事例から理解する健康障害と症状 2)腎不全と診断された対象の症状と治療の関連図作成し、 理解の共有		
14	2		1.事例から理解する健康障害と症状 3)2)の理解の共有して生活行動への影響を理解をする		
15	2	終講試験			
使用テキスト:e系統看護学講座 成人看護学 8腎・泌尿器 医学書院 参考資料:e新体系 看護学全書 解剖生理学 人体と構造と機能 メヂカルフレンド社					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
24.健康障害と回復過程 V (脳・神経系、精神疾患、代謝・内分泌の健康障害)				坂井健二 医師18年 戎井 豊 医師10年 高橋慶一 医師46年 峰村奈津美 看護師19年 佐々木保子 看護師7年 星野めぐみ 看護師21年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	60時間・30回	2		講義・演習
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目 目的	1.脳・神経系、精神、内分泌・代謝における健康障害とその回復過程について理解する。 2.脳・神経系、代謝の健康障害とその回復過程を看護の視点から考えることで、根拠をもって観察・判断するための力を養う。				
科目 目標	1.脳・神経系、精神、内分泌・代謝の健康障害と症状、それに応じた治療・検査を理解する 2.脳・神経系、代謝の健康障害と症状を関連づけることで、看護の対象を観察して気づき、アセスメントするための基盤をつくる。				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修 2.「人体の構造と機能」の看護でつなぐで使用した資料を復習する				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	脳・神経系 基礎的知識	1.構造と機能 2.症状と病態生理 3.検査・診断と治療・処置		
2	2	主な疾病と診療 脳疾患	1.脳血管障害 2.脳腫瘍 3.頭部外傷 4.脳脊髄液(髄液)の異常		
3	2	主な疾病と診療 脊髄疾患	1.脊髄血管障害 2.脊髄炎 3.亜急性連合性脊髄変性症 4.頸椎症・腰椎症 5.脊髄腫瘍 6.脊髄空洞症		
4	2	主な疾病と診療 末梢神経障害	1.糖尿病性ニューロパチー 2.アルコール性ニューロパチー 3.ギランバレー症候群 4.慢性炎症性脱髄性多発 5.単ニューロパチー 6.神経痛 7.顔面神経麻痺 8.顔面けいれん		
5	2	主な疾病と診療 筋疾患・神経筋接合部疾患	1.筋ジストロフィー 2.多発性筋炎・皮膚筋炎 3.ステロイドミオパチー 4.その他のミオパチー 5.重症筋無力症		
6	2	主な疾病と診療 脱髄・変性疾患	1.脱髄疾患 2.脳・神経の変性疾患		
7	2	主な疾病と診療 脳・神経系の感染症	1.脳炎 2.髄膜炎 3.脳腫瘍 4.その他の神経感染症		
8	2	主な疾病と診療 中毒	1.急性中毒のプライマリケア 2.おもな中毒性疾患		
9	2	主な疾病と診療 てんかん	1.おもなてんかんの発作型 2.てんかんの検査と治療		
10	2	主な疾病と診療 認知症 内科疾患に伴う神経疾患	1.アルツハイマー病 2.脳血管性認知症 3.レビー小体型認知症 4.前頭側頭型認知症 5.神経ベーチェット病 6.神経サルコイドーシス		
11	2	主な精神疾患/障害	1.精神疾患/障がいの診断基準・分類 2.神経発達症候群/神経発達障害群		
12	2		3.統合失調症 4.双極性障害		
13	2		5.抑うつ症候群 6.不安症候群 7.強迫症 8.PTSD		
14	2		9.摂食障害 10.物質関連生涯		
15	2		11.パーソナリティ障害 12.てんかん		
16	2	精神疾患の主な治療	1.薬物療法 2.電気けいれん療法		
17	2		3.精神療法		

18	2	内分泌・代謝疾患 基礎的知識	1.構造と機能 2.症状と病態生理 3.検査	
19	2			
20	2	内分泌・代謝疾患 疾患の理解	1.内分泌疾患と症状	
21	2			
22	2		2.代謝疾患と症状	
23	2			
24	2	看護とつなぐ 脳神経系の健康障害と症状	1.事例から理解する健康障害と症状 1)脳梗塞部位と対象の症状と治療の関連図作成 2)1)の理解の共有して生活行動への影響を理解をする	
25	2			
26	2	看護とつなぐ 認知症の症状	1.事例から理解する健康障害と症状 1)認知症と診断された対象の症状と治療の関連図作成 2)1)の理解の共有して生活行動への影響を理解をする	
27	2			
27	2	看護とつなぐ 代謝の健康障害と症状	1.事例から理解する健康障害と症状 1)糖尿病と診断された対象の症状と治療の関連図作成 2)1)の理解の共有して生活行動への影響を理解をする	
29	2			
30	2	終講試験		
使用テキスト:e系統看護学講座 成人看護学 7脳・神経 6内分泌・代謝 医学書院 e新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社 参考資料:e新体系 看護学全書 解剖生理学 人体と構造と機能 メヂカルフレンド社				
評価方法:筆記試験				

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
25.健康障害と回復過程VI (運動器・感覚器の健康障害)				稲 晃市郎 医師20年 沖田 渉 医師36年 傳田博司 医師27年 伴野正明 医師46年 岡村ひろみ 看護師33年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	30・15	1		講義・演習
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目 目的	運動器・感覚器における健康障害とその回復過程について理解する。また看護の視点で健康障害とその回復過程を考えることで、根拠をもって観察・判断するための力を養う。				
科目 目標	1.運動器の健康障害と症状、それに応じた治療・検査を理解する 2.感覚器の健康障害と症状、それに応じた治療・検査を理解する 3.既習の「人体の構造と機能」と運動器の健康障害と症状を関連づけ、看護の対象を観察して気づき、アセスメントするための基盤をつくる。				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修 2.「人体の構造と機能」の看護でつなぐで使用した資料を復習する				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	運動器疾患 基本的知識	1.運動器の構造と機能 2.症状とその病態生理		
2	2	運動器疾患 主な疾病と治療	1.診断・検査と治療・処置		
3	2		2.外傷性の(外因性)の運動器疾患と症状		
4	2				
5	2		3.内因性(非外傷性)の運動器疾患と症状		
6	2				
7	2	感覚器疾患(皮膚科) 基礎的知識	1.皮膚の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査と治療・処置		
8	2	感覚器疾患(皮膚科) 主な疾病と診察	疾病の理解		
9	2	感覚器疾患(眼科) 基礎的知識	1.眼科の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査と治療・処置		
10	2	感覚器疾患(眼科) 主な疾患と診察	疾病の理解		
11	2	感覚器疾患(耳鼻科) 基礎的知識	1.耳鼻咽喉頭・頸部の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査と治療・処置		
12	2	感覚器疾患(耳鼻科) 主な疾患と診察	疾病の理解		
13	2				
14	2	看護とつなぐ 運動器の健康障害と症状	1.事例から理解する健康障害と症状 1)骨折と診断された対象の症状と治療の関連図作成 2)1)の理解の共有して生活行動への影響を理解をする		
8	2	終講試験			
使用テキスト:e系統看護学講座 成人看護学 10運動器 12皮膚 13眼 14耳鼻咽喉 医学書院 参考資料:e新体系 看護学全書 解剖生理学 人体と構造と機能 メヂカルフレンド社					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野				
科 目 名				担 当 者
26.薬理学				古川和久 薬剤師44年
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)
1	後期	30時間・15回	1	
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面が 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づ る 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる			
科目 目的	1.薬物動態の基礎、薬物の人体へのはたらきと生体反応を理解する 2.看護の視点で健康障害、症状に対する薬剤の使用と作用を理解する			
科目 目標	1.薬理作用と薬物動態を学び、薬物の安全管理の必要性を理解する 2.薬物治療における各種薬物の作用機序と人体に与える影響を理解し、基本的使用法の基盤となる知			
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修			
回数	時間	授業内容		
1	2	薬理学の基礎知識 看護業務に必要な薬の知識	1.薬が作用するしくみ(薬力学) 2.薬の体内の挙動(薬物動態学) 3.薬物の代謝と排泄 4.薬物相互作用 5.薬効の個人差 6.薬物使用の有益性と危険性 7.薬と法律 8.処方箋	
2	2			
3	2	抗感染症薬	1.感染症治療に関する基礎事項 2..感染症の治療における問題点 (院内感染)	
4	2	抗がん薬	1.抗がん作用の仕組み 2.がん薬物療法で起こる問題 3.抗がん薬の種類 4.分子標的薬	
5	2	免疫治療薬 抗アレルギー・抗炎症薬	1.免疫抑制薬 2.予防接種薬 4.抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 5.抗炎症薬	
6	2	末梢での神経活動に作用する 薬物	1.交感神経薬 2.副交感神経薬 3.筋弛緩薬 局所麻酔薬	
7	2	中枢神経系に作用する薬物	1.全身麻酔薬 2.催眠薬 抗不安薬 3.抗精神病薬 4.抗うつ薬 5.パーキンソン治療薬 6.抗てんかん薬 7. 麻薬性鎮痛薬 8.片頭痛治療薬	
8	2	循環器系に作用する薬物	1.降圧薬 2.狭心症治療薬 3.心不全治療薬 4.抗不整脈薬 5.利尿薬 6.血液凝固系に作用する薬	
9	2	呼吸 消化器 生殖器 泌尿器 系に作用する薬物	1.呼吸器系(気管支喘息 鎮咳薬 去痰薬) 2.消化器系(消化性潰瘍薬 下剤と止痢剤)	
10	2		3.生殖器・泌尿器(女性生殖器系 男性生殖器系) 4.泌尿器系	
11	2	物質代謝に作用する薬物	1.糖尿病治療薬 2.甲状腺疾患治療薬 3.骨粗鬆症治療薬 4.治療薬としてのビタミン	
12	2	皮膚 眼科用薬 救急の時に使用される薬物	1.皮膚科用薬の種類 2.眼科用薬の種類 3.救急の際使用される薬物	
13	2	漢方薬	漢方薬の基礎知識 主な漢方薬	
14	2	消毒薬 輸液製剤・輸血	消毒薬とは 輸血製剤とは 輸血剤とは	
15	2	科目試験		

使用テキスト:e系統看護学講座 薬理学 医学書院
参考資料:

評価方法:筆記試験

[illegible]

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
27.代謝栄養学				中谷成利 栄養士23年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	30時間・15回	1		講義
DPとの 関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える。 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目 目的	1.人間が健全な生命活動し、成長発達するために必要な栄養素のはたらきを理解する。 2.健康障害とその回復過程にある対象への栄養状態・摂食状況・食環境をアセスメントするために必要な基本的知識を学ぶ。				
科目 目標	1.人間の生命維持、成長発達における食の意義を理解する 2.健康な社会生活を送るために食事と健康の関係性を理解する 3.健康障害とその回復過程にある対象への食事療法とその必要性を理解する				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	健康と栄養 日常生活と栄養	1.栄養とは 2.健康と栄養 3.看護と栄養 4.食と文化 5.食習慣と栄養 6.日本人の食事摂取率 7.スポーツと栄養		
2	2	栄養指導・保健指導	1.栄養指導の過程 2.入院患者のための食事の調整 3.保健指導		
3	2	食物と栄養	1.食品の種類と栄養素 2.栄養素とその働き 3.食物の摂取と消化・吸収		
4	2	ライフステージと健康教育	1.ライフステージに適した栄養・健康指導 2.妊娠期・授乳期 3.乳幼児期 4.学童期		
5	2		5.思春期 6.成人期 7.老年期		
6	2	疾患別食事指導の実際	1.糖尿病		
7	2		2.高血圧		
8	2		3.脂質異常症・肥満・痛風 4.虚血性心疾患		
9	2		5.脳卒中 6.COPD(慢性閉塞性肺疾患)		
10	2		7.肝炎・肝硬変 8.膵炎・胆石症		
11	2		9.CKD(慢性腎臓病) 10.潰瘍性大腸炎・クローン病		
12	2		11.胃切除術後(周術期) 12.摂食・嚥下障害 13.褥瘡		
13	2	経管栄養と中心静脈栄養	1.栄養療法 2.経管栄養法の実際		
14	2	経管栄養と中心静脈栄養の 管理と指導	1.静脈栄養法の実際 2.在宅栄養療法の管理と指導 3.栄養管理におけるチームアプローチ		
15	2	終講試験			
使用テキスト:わかりやすい栄養学 第5版 ヌーベルヒロカワ					
参考資料					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
28.保健医療福祉論				南 直樹 社会福祉士21年 大屋未輝 医療社会事業専門員23年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	30時間・15回	2		講義
DPとの 関連	5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる 10.国際情勢、地域の動向に関心をもつことができる				
科目 目的	保健医療福祉制度の成り立ちを理解し、行政の保健医療福祉サービスの概要・変容を学ぶ。さらに人間のライフサイクルに沿った保健医療福祉サービスの展開を学び、保健医療福祉行政の現状と課題を理解する。				
科目 目標	1.社会保障と社会福祉の各制度の概要と目的を理解し、多職種との連携に役立てる 2.公衆衛生の変遷から公衆衛生の目的・機能を理解する 3.各ライフサイクルにおける保健活動の概要を理解する				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	社会保障制度と社会福祉	1.社会保障制度と社会福祉 2.現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向		
2	2	社会保障	1.医療保障		
3	2		2.介護保障		
4	2		3.所得保障		
5	2		4.公的扶助		
6	2	社会福祉	1.分野とサービス		
7	2		2.社会福祉実践と医療・看護 3.社会福祉の歴史		
8	2		1.公衆衛生のエッセンス		
9	2	公衆衛生	2.公衆衛生の活動対象 3.公衆衛生のしくみ		
10	2		4.環境と健康 5.国際保健 6.集団の健康をとらえるための手法-疫学		
11	2		1.地域保健 1)母子保健 2)成人保健 3)高齢者保健 4)精神保健 5)歯科保健 6)難病支援・障害支援 7)感染症対策		
12	2	地域における 公衆衛生の実践	2.学校と健康 3.職場と健康 4.健康危機管理・災害保健		
13	2				
14	2				
15	2	終講試験			
使用テキスト:e系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院 e系統看護学講座 公衆衛生 医学書院					
参考資料					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
29.現代医療論				籠島 充 医師36年 片桐 公彦 寺尾 明美 看護師11年 青木美代子 精神保健福祉士30年 秋山 政人 渡部 恵利香 看護師8年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	30時間・15回	2		講義・GW
DPとの 関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向かい合うことができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる 10.国際情勢、地域の動向に関心をもつことができる				
科目 目的	医療の歴史を知り、現代社会における保健医療の位置づけを学ぶ。また保健医療の課題を理解し、看護を考え る基盤を養う。				
科目 目標	1.現在の保健医療とその課題、これからの保健医療の展望を理解する 2.健康と疾病・障害、それに対する保健医療のあり方について理解する 3.医療倫理の側面から現代医療の課題を学び、今後の看護に生かす				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	医療システムの理解	1.医療を支える人々 さまざまな医療関係職種とチーム医療		
2	2		2.保健医療サービスの提供体制		
3	2		3.日本の医療保険制度		
4	2		4.医療政策と医療計画 5.医療と経済		
5	2		6.在宅ケアの推進 7.高齢者ケアシステム		
6	2		8.救急医療の歴史と日本の現状		
7	2		9.災害医療 10.医療安全		
8	2	地域における保健医療福祉 の連携と未来への展望	1.社会福祉法人の概要 2.上越地域における社会福祉法人の現状 1)社会福祉法人みんなでいきる 1)基本理念 2)事業活動 3)課題と展望		
9	2		1.上越地域に生活する重症心身障害児とその家族の現状 2.上越地域に生活する重症心身障害児とその家族への 支援体制の実際 1)特定NPO法人ギフトドSora (1)基本理念 (2)活動内容 (3)課題と展望		
10	2		1.上越地域に生活する精神や発達障害児者とその家族の 現状 2.上越地域に生活する精神や発達障害児者とその家族 への支援体制の現状 1)NPO法人上越メンタルネット あぼあん (1)基本理念 (2)活動内容 (3)課題と展望		
11	2	人間の生命・尊厳の尊重	1.臓器移植の概要と歴史 2.臓器移植医療の現状と課題 3.医療と生命倫理		
12	2	医療は誰のものか	1.現代医療が目指すもの 1)チーム医療の基本思想 2)QOLを目指した現代医療 (1)GW (2)発表		
13	2				
14	2				
15	2	終講試験			
使用テキスト:学生のための医療概論 第3版増補 医学書院					
参考資料					

評価方法: 筆記試験、提出物、学習態度

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
30.関係法規				小島伸之	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	15時間・8回	1		講義
DPとの関連	5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	法規の基本的な知識を学ぶとともに、看護職にかかわる法規を理解することで、看護職としての職務を遂行するための根拠や基準を習得する。				
科目目標	1.法規の概念と保健医療福祉に関連する法規を理解する 2.学習した法規をもとに、看護職としての法的責任と義務を理解する				
事前学習	1.担当講師より提示された事前学修				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	法の概要	1.法の概要		
2	2	各種の関係法規	1.医療法規 2.薬事法規		
3	2		3.保健衛生法規 4.予防衛生法規		
4	2		5.環境保全・公害関係法規 6.環境衛生法規		
5	2		7.福祉関係法規 8.その他の関係法規		
6	2	看護と関係法規	1.看護と関係法規		
7	2		2.看護活動と関係法規		
8	2	終講試験			
使用テキスト:e系統看護学講座 看護関係法令 医学書院					
参考資料					
評価方法:筆記試験					

専門基礎分野					
科 目 名				担 当 者	
31.専門職連携				崇徳厚生事業団福祉の里グループの職員 渡部恵利香(看護師)	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
3	前期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの 関連	5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる 10.国際情勢、地域の動向に関心をもつことができる				
科目 目的	対象のニーズ・QOLを獲得のために多職種連携・協働の重要性を理解し、専門職業人として普遍的な知識および考え方・態度を修得する。				
科目 目標	1.多職種連携・協働の意義を理解する 2.多職種連携に参加する職種の役割を理解する 3.提示された事例について、保健・医療・福祉の側面から分析し、専門職業人としての知識・態度について考える。				
事前 学習	1.担当講師より提示された事前学修				
回数	時間	授業内容			担当者
1	2	多職種連携・協働の定義	1.多職種連携・協働の意義 2.看護職の専門性・役割		
2	2	保健・医療・福祉チームの 各職種の理解	1.多職種連携に参加する職種・役割の理解		
3	2		2.医師の役割と連携・協働の実際		
4	2		3.薬剤師の役割と連携・協働の実際		
5	2		4.管理栄養士の役割と連携・協働の実際		
6	2		5.臨床検査技師の役割と連携・協働の実際		
7	2		6.リハビリテーション関係職種の役割と連携・協働の実際		
8	2		7.放射線技師の役割と連携・協働の実際		
9	2		7.介護福祉士の役割と連携・協働の実際		
10	2		8.社会福祉士の役割と連携・協働の実際		
11	2		9.介護支援専門員の役割と連携・協働の実際		
12	2	専門職連携教育の実際	1.多職種連携・協働の事例による学習		
13	2		2.多職種連携・協働の事例による学習の理解共有		
14	2		3.多職種連携・協働の方法を共有		
15	2	終講試験			
使用テキスト:e系統看護学講座 看護管理 医学書院 参考資料					
評価方法:筆記試験、演習課題					